

なすび

第30号

目次

1p 特集~年度末を迎えて~

2p 行事報告

4p 部活動報告

栃木県那須学園

〒329-2132

矢板市沢900

TEL 0287-43-0573

FAX 0287-43-6886

メール nasu-gakuen

@pref.tochigi.lg.jp

発行日 平成31年3月15日

特集

〜年度末を迎えて〜

平成最後の出会いと別れの季節がやってきました。今回は、長年にわたり学園を支えてきた二人の先生からこの一年を振り返っていただきます。

◎一年を振り返り思うこと

園長 高野 一良

児童福祉法は、その時々々の時代背景や子供達の置かれた状況等により、社会の要請としての改正を余儀なくされてきました。今回の改正も正しくそうですが、その度に感じさせられることがあります。それは児童自立支援施設が社会的養護施設の中において、少教派の特別な施設として存在しているが故に、先人達は多数派に重点を置いた改正に対応すべく、子供達のために真摯に向き合いながら工夫を凝らし努力を重ね、存在意義としての確固たる伝統を、脈々と守り続けてきているということですが、今回の改正(社会的養育ビジョン)

では、「家庭的養育の原則」については目指す方向性に相違は無いものの「高機能化及び多機能化・機能転換」という新たな課題と、「小規模化かつ地域分散化」という児童自立支援施設の特徴となるべきところは、相反するような方向性のビジョンが提示されています。正しく我々の施設の在り方が何処へ向かうのかを、再び模索し検討しなくてはならない課題を突きつけられているのではないのでしょうか。

そのような社会状況の中、本園における支援は、関係機関や地域等々の多くの人々の暖かいご理解、ご協力により、他の同様の施設に誇れる支援を展開していると自負しています。教職員は時間と努力を惜しまず、真剣に子供達のために力を注いでいる姿に頭が下がる思いです。そして、この教職員としての在り方が、将来にわたり普遍不朽の精神として受け継がれていくものと思っています。そんな一生懸命な職員達だからこそ、嫌な思いはさせたくないと考えてきました。そのため、児童支援に力を注ぎながらも、児童を取り巻く社会状況に目を向け、児童福祉全般への大きな視点で物事を捉えること

が大切であると伝えてきました。そのため、職員には機会ある毎に改正児童福祉法の解釈や対応について伝えることを意識してきました。その中のひとつに権利擁護についての考え方ということがあります。

第三者評価のなかで、児童の意見表明権の確保(意見箱の適正運用)というのは課題とされ、学園の対応として更なる高みを目指していく必要がありました。そして権利擁護への正しい理解と対応は、改正児童福祉法への対応と同様に、おさなりに出来ない時代の流れの中に在ることを強く感じ、意見箱の適正運用に取り組んできました。

児童の意見表明権の確保というのは、児童からの話を全て聞き入れ、言いなりになるということではありません。学園に求められている社会的な使命を考えたとき、学園の中には全てのところで正義に満ちあふれていなくてはなりません。このことは子供達にも求めると同時に、教職員が正義を履行していくことで、子供達を正しい方向へ導くことが出来ると考えています。

今も学園の中は「正義」に満ちあふれている素晴らしい施設です。だ

からこそ、時として子供達の声に耳を傾けることは「正義の履行者」として至極当然のことなのです。これからの救いを求める子供達のために、社会的養護施設の「最後の砦(望み・救い)」としての使命感を持ち、また「心の港」として的那須学園で在り続けることを、後輩の教職員に託したいと強く思っています。

◎一年を振り返って

女子寮長 中川 晃

○二種免許

運転免許センターで、第二種免許技能試験(八〇点以上で合格)の挑戦を続けています。一昨年六月にけん引(受験二〇回。一五回目で成績表の点数の欄にチユウシではなく点数が表示されました)。昨年四月に普通(一五回。一〇回目で点数表示となりました)。取得時講習を教習所で受けて免許が交付されました)。バス型自動車で運転を積もうと、五月に自動車学校の大型二種教習に入校。並行してセンターでの中型も受験しました。教習は五月中に早々と終わってしまいました。七月に中型(一五回。五回目に点数表示)。その直後に卒業検定を三回受験して卒業。センターでの適性試験に合格して大型を取得。大型特殊を残すのみとなりました。

○ラジオ気象通報

ラジオ気象通報で描いた天気図の総数は、六千枚超。森田予報士が

☆行事報告☆

三千枚描いたら天気予報ができると何かで読みましたが、未だ天気予報はできません。予報士の試験は、全く勉強せず、ただ試験を受けるだけをかかれこれ一二年以上続けています。

○吹奏楽

水泳やマラソンは個を鍛え、バレーボールでチームワークを学び、吹奏楽は協調を学ぶ部活動の総仕上げと思っております。また、職員と児童が場を共有し、共に曲を作りあげていくことが他の部活動とは違います。基礎練習がしっかりできないといひ音は出ません。しかし、今年のみならず一緒に練習をしたり、個別練習もなかなかできず、曲の流れもつかめず、音がしっかり出ないまま消化不良で終わってしまいました。

関東少年文化祭での吹奏楽発表には練習の制約等で限られた時間の中で厳しいものがあります。しかし、楽譜が同じであれば合同演奏は可能です。矢板で毎年行われるふれあいコンサートでの中学校小学校の合同演奏と同じように、関東少年文化祭でもできないかと第三八回関東少年文化祭（分校開設等が各地に広がった頃）の打ち合わせ後の飲み会で、萩山の石井先生に声をかけ、たった一回ではありましたが合同演奏ができました。吹奏楽が復活してほしいと思います。

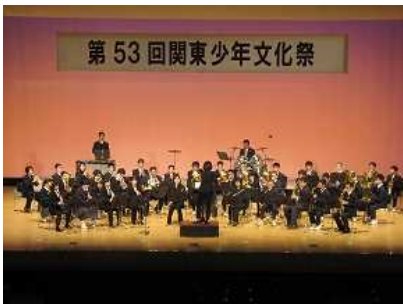
○ひとこと

夫婦制は、夢でしたが、最後まで教護を全うできればと思います。

☆関東少年文化祭 一月七日

那須学園の吹奏楽部にとって初めての発表のステージが関東少年文化祭でした。練習時間の制約がある中で必死に練習し、なんとか曲として成立させて披露した、という感じでした。演奏のレベルはともかく、心をこめて一生懸命吹くことを皆で頑張りました。

他施設の格好いい発表を見ることが、子供達にとっては貴重な体験となりました。刺激をもらい、自分達の吹奏楽ももっと上手くできるようになるう、というモチベーションにもなったと思います。



☆矢板たかはらマラソン

一月一日

今年の中卒生二名と共にハーフマラソンに出場しました。陸上部の監督をしながら部員八名と共に練習を

してきたこと、また、職員として生徒と一緒に出場するという児童自立支援施設ならではの「*ミコ*の精神」を持って取り組みました。練習では私より速く走る二人でしたが大会では距離の壁にぶつかり、途中止まり歩きをし、ゴールすることになりました。とはいえ、マラソンの楽しさ、達成感、安心感やゴールの難しさ、たいへんさなど多くのことを感じることでできた大会になったのではないだろうか。来年も走りたいなと思います（中卒生部員がいたら）。

☆収穫感謝祭 一月二二日

那須学園の周りは田畑で囲まれており、子ども達が口にするお米や野菜を作っています。そこで、一年の収穫物への感謝を込め、餅つき会を行いました。学園の畑で収穫した野菜を使い、汁を作り、餅米も学園の田んぼで育った米を使用しました。餅つきではどの寮も協力をし、ついたり、こねたり、細分したりと笑顔で



おいしくいただくことができました。これからも感謝の気持ちを忘れずに、野菜作りや米作り、その他の作業と励んでいきたいと思います。

☆関東少年卓球大会 一月二七日

今年も「団体戦三位入賞以上！」を目標に九月から三か月間、子供達は頑張ってきました。

決勝トーナメント一回戦。この試合に勝てば三位！という向陽学園との試合。結果的には負けてしまいましたが、強豪の向陽さんを少しは慌てさせる試合ができたことは、子供達にとっても大きな財産になったのではないかと思います。この経験が今後の人生に生かしてくれればと強く願っています。

☆しおや湧水の里マラソン大会

一月二九日

一月九日、しおや湧水の里マラソン大会に男女陸上部が出場しました。女子は小学生の部（二km）と、中学生の部（三km）。男子は、中学生の部（五km）、一般の部（五kmと一〇km）に挑戦しました。湧水の里マラソンは、周囲に山を見渡せ、田園に囲まれた自然豊かなコースを走って行きます。途中、キツイ登り坂、下り坂もありますが、出場した児童全員が一生懸命な走り、見事完走出来ました。

児童にとって大会の参加は、地域の大会に出場する数少ない機会であ



り、とても貴重な経験になっていきます。大会参加に当たりましては、学園に陸上部の取り組みに日頃からご理解、応援して下さっている方々に、この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございます。

☆クリスマス会 一月一六日

一月一六日、那須学園の体育館にてクリスマス会が行われました。今年度の学園行事はといえますと、運動会が雨・・・、学園祭が雨・・・、天候に恵まれず、「園長先生が雨男？」といったクリスマス会は大雪では？！と心配されていましたが、無事、ホワイトクリスマス会とはなりませんでした。

クリスマス会と言えば、各寮の出し物です。まず二寮は児童一人一人の個性が窺える内容の出し物で、部活動で中心となつて頑張った様子などが伝わる劇でした。一寮は、絵本どろぼう学校を一寮バージョンにした劇で、学校の生徒や先生に扮した一寮生と職員が個性的に演じていました。女子寮は、仮装大賞。小道具作りも頑張り、笑いをさそう出し物になりました。その他、吹奏楽の発表、司会やスライドショー発表も児童

童で分担して、練習してきました。各寮それぞれの雰囲気や、児童の様子も見てもらえたかと思えます。美味しいケーキやおやつも頂き、来てくれた方々と楽しいひとときを過ごす事ができ、思い出に残るクリスマス会になりました。



☆席書大会 一月八日

平成三十一年の最初の登校日、分校において席書大会が行われました。決意の言葉を選び、作文を書いて音読の練習をするのはもちろん、習字道具の使い方から後片付けの仕方まで、一か月前から準備をしてこの日を迎えた子供達。当日は、緊張しながらも立派に大会に臨むことができました。

今年度の最優秀賞受賞作品は「臨機応変」。他に、優秀賞と特別賞三点が選ばれました。どの子供も、自分についてしっかり振り返り、自信をもって前向きな決意を発表することができました。素晴らしい一年のスタートになりました。

☆スキー教室 一月一日・一日
学園からバスに乗り一時間ほどでエーデルワイススキー場に到着しました。たった一時間で辺りが雪景色に変化することに驚く子どももいました。二回とも同じスキー場でしたが、晴天だったり、吹雪く寒さだったり、同じ場所とは思えないくらい天候の違いがありました。しかし、雪山の変化を肌で感じてもらったのではないかと思います。ほとんどがスキー初心者でしたが、上達ぶりは素晴らしく、驚きました。また、寒い中でもひたむきに滑る姿に、子ども達のたくましさも、まだまだ秘めている力を感じました。



☆ふれあいコンサート 一月二六日

矢板市の保育園・小中学校が集まる「ふれあいコンサート in YAITA」に、那須学園吹奏楽部として今年も参加してきました。ちょうど「私達もだいぶ上手く演奏できるようになったのでは？」と自惚れかけていた時期でしたが、市内の小中学生や小さな保育園生がとても綺

麗な演奏をしているのを見て感動しました。子供達にとっても良い刺激になったと感じます。

生まれて初めて楽器を触るといふところからスタートした私達は、私達らしく、心を込めて一生懸命に演奏しました。矢板市の皆様からいただいたあたたかい拍手は宝物です。

☆立志式

二月一日

二月一日(金)に二年生七名を対象とした「立志式」が行われました。式の由来は武士の時代の元服に由来するといわれていますが、現在では自分の将来を考えるため、現在の生き方を振り返りながらこれからの自分の目標を立てるために行われる式となっております。七名も普段は考えたことのない内容に真剣に向き合い、悩み、苦勞しながら自分の「志」を作文にまとめ立派に発表することができました。当日は緊張のため式に参列して下さった方々を見ることもできずに、手に汗を握りながらということでしたが、一生に一度の貴重な体験を積むことができました。

☆栃木県児童福祉施設文化祭

二月三日

栃木県内の児童福祉施設が集まり、それぞれの施設で練習してきた「持ちネタ」を披露しました。那須学園は今年も吹奏楽の発表をしました。今年度の吹奏楽部の集大成としてのステージで、今までで一番の演奏が

できたのではないかと思えます。
この文化祭は、県内の児童福祉施設が一堂に会す貴重な機会でもあります。応援してくださるたくさんの方々の想いに見守られ、子供達一人ひとりがそれぞれの想いを持ちながら、あたたかな文化祭を味わいました。

☆園内マラソン大会 二月八日

一月八日、風が強くはありましたが天気にも恵まれ、中学男子は四・二km、中学女子・小学生は三・〇kmの距離を全員が走りきることができました。大会本番では「弱い自分に負けない」ことを意識し、多くの児童が心に響く走りを見せてくれました。

また、午後の部として寮對抗駅伝大会が実施されました。児童たちは仲間のために全力で走り、大きな声援を送り、団結して必死にたすきをつないでいました。その姿は、胸を打つには十分すぎるほど感動的なものでした。園長を筆頭に、職員が額



に汗しながら走る姿もありました。その姿もまた感動的でした。今回のマラソン大会を通して、那須学園の一体感を再確認することができました。

☆部活動報告☆

☆吹奏楽部

六月から活動を開始した吹奏楽部ですが、子供達（と多くの職員）が楽器の初心者なので、初めの頃の練習は大変なものでした。音が出ません、唇が疲れました、ドレミファまでしか出ません、など……。同じように苦労している職員も子供達と一緒に地道に練習を重ね、少しずつ音楽らしくなり、最終的には「ミッキーマウス・マーチ」「RAIN」「宇宙戦艦ヤマト」の三曲を演奏しました。普段は強くて頼れる職員が、初めての楽器や苦手な音楽に悪戦苦闘・試行錯誤する姿は、果たして子供達の目にどう映ったのでしょうか。子供達のみぞ知るところですが、今年も共に曲を作り上げることができて良かったと思っています。

☆マラソン部

今年度のマラソン部は、テーマを「チームで学ぶ」、活動目的を「自立心（個の力）・協力する心（全の力）を養う」に設定しました。児童たちは懸命に走ることに加え、寮ごとに分けられたチームの中で、リーダー

やアップ係、荷物係など「二人一役」でチームに貢献していました。最初は弱気な場面も見られましたが、日がたつにつれ、自分とチームのため責任をもって取り組む姿が増えていきました。更に、各チームの垣根を超え、声をかけ、励まし合いながら走る姿も増えていきました。「それぞれチームが精一杯頑張る、那須学園全体がレベルアップしている」そう感じられる活動となりました。協力して下さった職員の方々に感謝の気持ちを伝えるべく、今回の経験を生かした指導で児童たちの成長を促していきたいと思えます。

☆野球部

二月中旬から野球部がスタートしました。この時期の活動はスポーツを取り組む姿勢や、礼儀、マナーなどを中心に教え、基本的な練習を繰り返して行っています。昨年度の経験者も、今年から野球に取り組む児童も同じスタート地点に立たせ、一から野球を教えていきます。昨年度はあと一步のところまで全国大会出場が叶いませんでした。来年度は栃木県主催大会となるので「目指せ全国大会!!!」を目標に、チーム一丸となつて頑張ります。

☆バレーボール部

バレーボール部は、女子寮の子供達にとって一番活動期間が長い部活動です。チームプレーを通して他者

を思いやる気持ちの育成という点でも非常に意義のある活動であると感じています。トレーニングの時期である今、体力の向上に合わせ、元気な声出しやあいさつマナーといった基本的な部分を集団の力で培わせたいと思い練習に励んでいます。

児童間の経験、体力には大きな差があります。そのことを踏まえ自分ができることを精一杯取り組み、チームメイトを応援し、バレーボール以外のスポーツにおいても、生活全般においても基礎となる部分を大切に活動していきたいと思っています。

編集後記

平成最後の一年、子供達も職員も駆け抜けました。来年度も皆で頑張っていきます。本年度も様々なご支援・ご協力をいただき、本当にありがとうございます。今後も子供達にあたたかいご声援をよろしく願います。

育成課

伊澤・早川・印南・松田

